

2019 JULY

住み慣れた土地で 生き生きとした暮らし

和

vol.
20

DAI2 NARITA
MEMORIAL
HOSPITAL



ご挨拶 「令和を迎え」

副院長 竹内宣久



当院では、今年度も昨年度に引き続き、看護・介護福祉士の部門を中心に理学・作業・言語療法の各部門に19名の新しいスタッフを迎えることができました。ベテランのスタッフと新しいスタッフの力が融合して第二成田記念病院を支える大きな力となっています。

さて、今年度からリハビリの制度上の改定があり、回復期リハビリテーションを行って退院後さらに外来通院で最長3か月まで医療保険で通院リハビリテーションができるようになりました。前述のようにリハビリテーション療法士が増えて余裕ができたこともあり、当院でも今年6月から退院後にリハビリテーションの適応があれば理学療法、作業療法を最長3か月まで通院リハビリテーションを行っていく取り組みを開始しています。3か月行った後は、通所リハビリテーション、あるいはデイサービスへ紹介して維持期のリハビリを行っていくこととなります。まだ始めたばかりですが、これから患者様のためになるように取り組んでいきたいと思っております。

次に最近行っている病棟での取り組みについて紹介したいと思います。回復期リハビリテーション目

的で入院された患者様にとって、排泄の問題は重要な問題です。回復期リハビリテーション病棟協会の第3条に“排泄はトイレへ誘導し、オムツは極力使用しないようにしよう”という宣言の一つがあります。当院の病棟では、1. オムツ排尿の場合は、トイレに誘導して排泄させるクセをつける。そうすることで爽快感を感じて排泄の自立につながる。2. 従来からの開きのオムツは使用せずリハビリパンツを使用する。若干の尿漏れのある場合でも布パンツとパットをあてて、パット交換をして対処する。看護・介護でカンファレンスを行って、排泄の自立に向けた取り組みをしていく。3. 神経因性膀胱などの原因で尿道留置カテーテルが入っている患者様に対しては、尿道カテーテルを一時的に止めてみて尿意のあることを確認して、なるべく早期に尿道カテーテルを抜去しています。尿道カテーテルを抜去する時期としてはトイレで座位になって腹圧をかけられる時期が望ましいと考えています。薬剤治療として、膀胱の収縮力を強める作用のあるウブレチド錠の内服や尿道の出口を開いて自排尿を助けるアルファ・ブロッカーを処方して自排尿を促します。残尿がある場合、あるいは全く自排尿できない場合でも1日に4、5回尿道から細いカテーテルを入れて間歇導尿すれば留置カテーテルを行わずに済みます。排泄の自立は人としての尊厳に関わる重要な問題であり、これからも排泄の自立に取り組んでいきたいと考えています。当院のモットー「人としての尊厳」「主体性・自己決定権の尊重」「地域リハビリテーション」を念頭に患者様に喜んでいただけるように頑張っていきたいと思っております。



新入職者紹介



稲葉 勇志
理学療法士

4階Dチームに配属されました理学療法士の稲葉勇志です。新卒1年目の23歳です。

まだまだ勉強不足で分からないことが多いですが、新人らしく一生懸命頑張ります。よろしくお願いします。



小出 稜介
理学療法士

新卒、理学療法士の小出稜介です。まだこちらの地域にきて間もないので知らないことも多いですが、患者様や地域の方と関わりながらいろいろなことを学んでいけたら良いなと思っています。精一杯頑張ります、よろしくお願いします。



小田 隆太郎
理学療法士

初めまして、Bチームに配属になりました。渥美出身の小田隆太郎です。Bチームはリハの新人が私1人だけということで緊張していますが「ここがホームだ」と思えるように日々努力していきます。よろしくお願いします！



伊藤 希
作業療法士

はじめまして。作業療法士の伊藤希です。新卒1年目なので、不慣れなことが多くご迷惑等たくさんおかけするとは思いますが様々なことを学んでいけるように精一杯努力していきます。これからよろしくお願いします。



渡井 謙太
作業療法士

作業療法士の渡井謙太です。他の病院で7年勤務し今年で8年目になります。

東三河に引っ越してまだ間もない為、右も左も分からない事だらけですが少しでも早く慣れ、患者様に貢献出来る様に頑張りますので宜しくお願い致します。



片田 真実
作業療法士

以前は静岡県の回復期病院にて3年間勤務していました。慣れない土地で不安な事も多いですが、一生懸命頑張りますので一緒にリハビリを頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。



白井 厚樹
言語聴覚士

3階Aチームに配属されました、言語聴覚士の白井厚樹です。

優しい先輩方のおかげで、だんだんとわかるが増えてきました。少しでも早く患者様の力になれるようがんばりますので、これからよろしくお願いします。



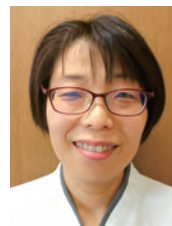
八木 見知子
言語聴覚士

まだ慣れないことも多く不安もありますが、先輩方を見習って学び、アドバイスを頂いて成長していきます。患者様やご家族の気持ちに寄り添える言語聴覚士を目標とし、日々努力します。よろしくお願いします。



益田 祐依
看護師

4月に入職させていただいた4階看護師の益田祐依です。回復期病院での勤務は初めてなので、日々勉強して、深めていきたいと思っています。これからよろしくお願いします。



沖野 千加
看護師

今年の5月より看護師としてこちらに入職しました。病棟勤務は久しぶりとなり、日々新たな気持ちで取り組むことが多いです。(今後は)患者様やご家族の支えになることを目指していきたいと思っています。宜しくお願い致します。



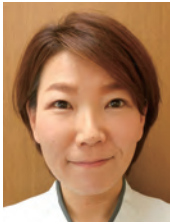
吉田 真理
看護師

今春、東三河看護専門を卒業し4月より3階Aチームに配属されました吉田真理と申します。温かくプロフェッショナルな先輩方を目指し頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



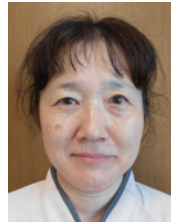
桃原由紀子
看護師

回復期病棟は初めてです。覚える事も多いですが、スタッフのみなさんの指導の元、楽しく働かせてもらっています。患者様の思いにそえるような看護をしていきたいです。



木下菜美子
看護師

8年ぶりの病院勤務になります。リハビリに一生懸命励む患者様のお役に立ちたいと思い就職いたしました。元々そそっかしい性格です。ご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、よろしくお願いいたします。



大嶋 和代
准看護師

入社して1か月が経ちました。日々、患者様のリハビリの頑張りには感動しております。まだまだ、みなさんに迷惑ばかりかけておりますが、今後とも、患者様の退院に向けてのお手伝いをさせていただきたいと思っております。



津田 康代
准看護師

看護職の責任の重さを感じる中、先輩方の御指導と患者様からの笑顔や「ありがとう」の言葉に支えられている毎日です。患者・家族様の心に寄り添い安心してその人らしい生活を送ることができる看護を目指し、頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



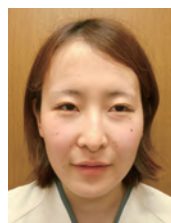
鈴木 彩加
准看護師

新卒で入社しました。何もわからない状態ですが、先輩方の御指導を大切にしながら1人前の看護師になれるよう努力していきます。回復期の患者を知り、少しでもよりそえるようになりたいです。未熟ですが精一杯努力します。よろしくお願いいたします。



遠藤 倫代
介護福祉士

パートで入社した介護士です。4歳・3歳・1歳の3児の母です。子供が小さく毎日が騒がしいですが出勤することで生活にメリハリができました。これからよろしくお願いいたします。



松本 莉奈
介護福祉士

5月に入社しました。約3年ぶりにこちらに戻ってきましたが、みなさんに助けて頂き1か月が経ちます。これからも頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



森下 実紅
介護福祉士

初めまして。私は今年の4月から介護福祉士として働いています。新卒でまだまだ不安なこともあります。笑顔と学ぶ姿勢を大切に頑張っています。今後、患者さんや職場の方から頼りにしてもらえよう介護福祉士になれるよう励んでいきます。



部署紹介



3階Aチーム

私達Aチームは関谷Drを中心とし、看護師・介護士・セラピストをはじめとした全ての医療スタッフが協働して、患者様一人ひとりに合った計画を立案し、リハビリテーションを実施しています。当病棟には、在宅復帰・社会復帰を目指す方が多く入院されています。そのため、入院中からご家族・地域の方とも連携をとり、早期に退院できるよう支援しています。また、回復過程にある患者様の持てる力を最大限に引き出し、その方らしい生活を送ることができるよう心掛けています。

そこで、令和元年度のAチーム目標を「FIM効率 脳血管系0.35 整形外科系0.45」と設定、全国・当院の平均値と比較した上で目標値を設定しケアを実施しています。当院の理念「生き生きとした日々の暮らしが自立へと繋がるケアを実施します」を念頭に置き、在宅復帰・社会復帰を推進し安心して在宅生活が送れるようなケアを実施して行きたいと思えます。

3階Bチーム

竹内Dr率いるBチームについて紹介します。Bチームの本年度の目標は『転倒・転落件数を減少させる～転倒・転落件数ワースト1からの脱却を目指そう!!～』です。転倒は病気や加齢により、歩行障害や筋力低下など身体的なもの(内的要因)や生活環境からくるもの(外的要因)が原因となり引き起こしてしまいます。

そこで、我々は患者様の入院生活の安全に配慮し、ADL能力を高めるために、リハビリ以外の時間を利用して病棟トレーニングを実施したり、寝たきり防止に向け離床を促したりしています。更に、チームスタッフ感の情報共有(カンファレンス)やコミュニケーションを密にし、かつ各々の危険察知能力の向上を目指した勉強会(KYT、症例検討)を実施し、患者様の安全な入院生活を守るために、日々転倒・転落防止に努めていきたいと思えます。

4階Cチーム

Cチームは西村院長が主治医のチームです。的確な判断力と行動力のある西村院長を中心に、病棟スタッフ・リハビリスタッフ一丸となって、患者様の機能向上を目指し頑張っています。今年度の取り組みは「チームで目標を達成しよう」です。Cチームは多職種の情報共有に力を入れています。患者様の短期目標を各スタッフが把握し、その目標を元に月に2回、チーム全体でカンファレンスを開催します。チームで情報を共有する事で、様々な視点から意見があがり、問題解決へと導きます。患者様が目標を達成され、安心して退院ができるように、チーム全体で統一した介入を行っていきます。入院中患者様は、精神的に落ち込んでしまうケースも少なくありません。入院生活が長くなる事でのストレス、機能回復が停滞する時期もあり、焦りや不安も出ます。そういった患者様の精神的なフォローが出来るように、患者様の思いに寄り添い、主体的にリハビリが出来るように関わっていきます。

4階Dチーム

チームの中心に穏やかな物腰の安藤医師、積極的なセンス溢れるリハビリテクニックを持ち合わせる理学療法士、冷静に科学的根拠を元にリハビリを行う作業療法士、常に明るく笑顔で患者、家族に寄り添う看護師、丁寧なケア、状況判断能力をもとに素早い行動で多患者を介護する介護福祉士を中心に、個々の能力を把握しリーダーを補佐する能力高いメンバー達で成り立つ連携のとれた素敵なチームです。風通し良く、他職種間の壁はなく、相手の良さを互いが認めあい支え合う事が出来ています。

常に患者様を元の生活である自宅への復帰を考え、日々能力を上げる事のみならず、生活に即したリハビリを中心に関わりを持っています。今年度は、患者様、御家族の思いに添いリハビリを行い、各職種の目標を明確に他職種が連携して関わり、少しでも前向きに入院生活が送れるよう取組んでいます。リハビリ病院は患者、家族が中心です。心配なことは共に考えていきましょう。

薬局課

入院された患者さま、またはご家族と面談をし、持参されたお薬、入院前の服薬の状況などの確認をしています。その際にアレルギー歴、副作用歴や飲み合わせ等の確認も行い、起こり得る副作用とその対処方法の説明をしています。

患者さまに適切な薬物療法が行われ、かつ安心してお薬を使用していただけるよう、医師をはじめとする多くの部署と連携をし処方設計や提案をしています。処方せんの内容について飲み合わせ、用法・用量などのチェックを行い、患者さま一人一人に適した形で調剤をし、薬を正しく使えるように薬の効果・使い方・注意点などをお伝えしています。また、お薬に関するご相談にも応じます。

栄養課

栄養課では安全でおいしい食事を提供することを大前提に、食を通じて患者さんの栄養のサポートを行っております。入院患者さんの多くは長期間の入院を余儀なくされ日々のリハビリに励んでおられます。そのような入院生活の中で食事は数少ない楽しみの一つです。栄養課では患者さん一人ひとりの病態に合わせた食事を提供することで、影ながら回復の手助けをしております。また月に1度イベントメニューを催しております。季節の食材を用いて、少しでも楽しめる工夫を行っております。8月はうなぎを予定しておりますので是非楽しみにしててください。今後も栄養課では食を通じて患者さんにできることを常に模索していきたいと思っております。

相談室・事務部

社会福祉士資格を持つ相談員5名、入院受け入れ調整と外来を担当する看護師1名が在籍しています。入院前は急性期病院や患者家族との転院相談窓口として、連絡調整や見学対応をしております。入院後は各チームに1名ずつ配属していますので、入院時より担当相談員として関わらせていただきます。介護保険や身体障害者手帳といった病後の生活に関する制度利用のご案内、その活用の際の相談・利用援助、退院後に介護・生活を支援いただく関係機関とのやりとりなど、退院までの準備を患者様・ご家族様がスムーズにできるよう、お手伝いさせていただきます。

事務部では、職員の人事管理、入院・外来患者様の保険請求、診療録管理、診断書などの書類対応、医療統計・分析等を行っております。複雑で解りづらい保険制度のことなど様々なお問い合わせをいただきます。困ったことやご質問、ご不明点がありましたら、お気軽にご相談下さい。

第3回 第二成田記念病院 脳卒中教室

予防から最新の治療・リハビリテーションまで、
知っておきたい、脳卒中の知識

定員先着
40名

2019年9月21日(日) 10:30-12:00

第二成田記念病院 2階A会議室 豊橋市東小池町62番地1

第1部 「糖尿病と脳卒中」

講師：関谷佳代（第二成田記念病院 医師）

第2部 「糖尿病の栄養指導について」

講師：松井康二（第二成田記念病院 主任 管理栄養士）

ご予約お問い合わせ ホームページもご覧ください <http://www.meiyokai.or.jp/narita2/598.html>

FAX（参加申込書）・Eメールで下記までお申し込みください。

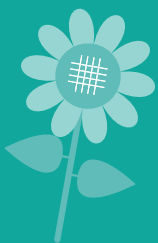
- ・参加申込書：第二成田記念病院の受付・3階4階スタッフステーションにご置きます。
- ・直接参加申込書をご持参いただいても結構です。
- ・電子メールでのお申し込み場合には、表題は「脳卒中教室申し込み」としてください。
- ・受講可能となった場合は、お申し込みの返信は致しません。

〒440-0855 豊橋市東小池町62番1 第二成田記念病院 事務室

TEL.0532-51-5666 FAX.0532-55-0660 E-mail:dai2jimu@meiyokai.or.jp

※申し込みをいただきました個人情報、第二成田記念病院にて厳重に管理いたします。

編集後記



夏真っ盛り！ 子供たちの声がいつもより賑やかです。そんな夏といえば「ひまわり」。ひまわりの花言葉は、「憧れ」「あなたを幸福にする」などロマンチックな花言葉があるようです。花の色によっても、大きさによっても花言葉が違うようですが、夏真っ盛りに咲く大輪のひまわりには「希望」や「元気」をもらえる気がします。夏休みを迎え忙しさ増し増しのお母さんやお疲れの近い方に大輪のひまわりを一本プレゼントするのはいかがでしょうか。きっと元気増し増しになるのではないのでしょうか。

看護介護部長 内田 ひとみ

病院基本理念

「人としての尊厳」と「自分らしさ」を根源に、
住み慣れた土地での生き生きとした暮らしへの復帰を支援します。



社会医療法人 明陽会

第二成田記念病院

〒440-0855 豊橋市東小池町62-1 TEL.(0532)51-5666
<http://www.meiyokai.or.jp/narita2/> FAX.(0532)55-0660